

## 教学 IR におけるリサーチ・クエスチョンの作り方： 教育改善の実現に向けて

### ■講師



川那部 隆司(立命館大学・教育開発推進機構・准教授)

2006年3月立命館大学文学部心理学専攻卒業、2007年11月ランカスター大学大学院修了(Master of Science)、2011年3月立命館大学大学院修了(博士(文学)取得)。2011年4月立命館大学教育開発推進機構に講師として着任、教学 IR プロジェクトとして各種調査の設計・実施、およびデータの分析・報告を担当。2013年4月より同准教授。教学 IR によるデータに基づく教育改善の具体的な活動として、初年次教育、接続教育等を含む学習支援に関わる学部支援、プログラム等の開発・実施を担当。

### ■プログラム概要

日本の多くの大学で、IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動が急速に進められています。しかし、現状では「どんなデータをとれば良いのかわからない」「どんな分析が必要かわからない」「IR 活動が実際の改善につながらない」といった声が頻繁に聞こえてきます。

この一因には、リサーチ・クエスチョン(以下 RQ、ここでは「リサーチのための問い」とします)が明確でないことが挙げられます。RQ が曖昧な場合、何を明らかにしたいかが曖昧なので、当然集めるべきデータ、行うべき分析がわかりづらくなります。そうすると、実際の改善にもなかなか結びつきません。

本プログラムでは、まず教学 IR の概要と国内外の現状について解説します。その後、良い RQ とはどのようなものかを具体例を挙げながら紹介した上で、グループに分かれて、実際に RQ を作る体験をしていただきます。RQ を作るプロセスを身につけていただくことで、実際の教育改善につながる IR 活動が実践できるようになります。

### ■主な受講対象

教職員。特に、教学分野の IR に携わっておられる方だけでなく、大学全体あるいは学部レベルのデータに基づく教育改善に興味をお持ちの方であれば、IR の取り組み経験が少ない方でも歓迎いたします。

### ■本プログラムの到達目標

1. IR におけるリサーチ・クエスチョンの重要性を説明できる。
2. 良いリサーチ・クエスチョンとはどのようなものかを説明できる。
3. 実際の改善につながる IR 活動を進めるための、リサーチ・クエスチョンを作ることができる。

### ■日時・会場

日 時 : 平成27年8月26日(水)10:00~12:00  
会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス